



大和証券グループの環境負荷

大和証券グループの事業活動による環境負荷は小さくないとの認識のもと、継続して環境負荷の改善に努めているほか、従業員への意識啓発を行なってまいります。社内外へ向けた地球環境問題への取組みにつきましては、P.17-19をご参照ください。

大和証券グループの環境負荷低減の取組みにおける理想像と中期目標

大和証券グループは、地球環境問題について、従業員一人ひとりが以下のように考え、行動すべきと考えます。

環境問題を自分自身の問題と考え、省エネや事務フローの

改革に自主的・積極的に取り組む。

社会的責任投資の考え方の普及・啓発に努め、環境問題に取り組む企業を、証券市場を通して支援する。

そうしたことにより、経済発展と地球環境に貢献したいと考えます。

2006年度の課題・目標

環境マネジメントシステムの国内連結会社への拡充

帳票類電子化、オフィス用紙削減等による環境負荷の低減

調達にかかわるガイドラインの策定

2006年度の実施・進捗状況

・国内連結会社を対象に、環境負荷データ集計、要求事項遵守状況の確認、適切な室温調整およびクールビズを実施

・大和証券の顧客および社内向け帳票を大幅に削減 (P.17-18参照)

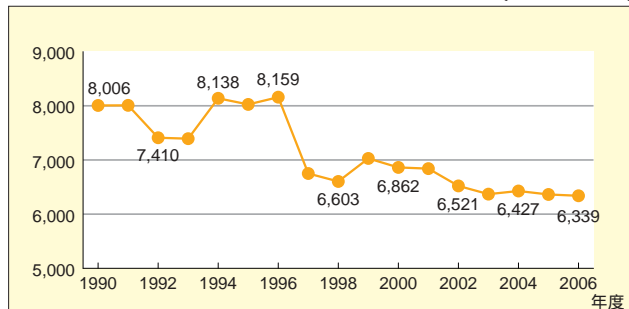
・2007年11月の本社ビル移転に伴い、原則として文房具などのオフィス用品をグリーン調達することを検討

大和証券本店ビルの環境負荷

1990年度から継続してデータの集計が可能な大和証券本店ビルにおける電力使用量は、2006年度に1990年度比で20.8%減少しています。空調設備の入れ替え等による省エネ効果、および業務効率化による労働時間の減少が主要な電力使用量減少要因と考えられます。

大和証券本店ビルの電力使用量

(単位:千kWh)



大和証券グループの環境負荷

大和証券グループの環境負荷は、2002年度以降順調に減少を続けていましたが、2006年度は電力使用量の増加を受けて上昇しました。これは、大和総研においてデータ処理等にかかわるビジネスの受託が増加したため、サーバおよび電算室の空調管理のための電力使用量が増加したことによるものです。本店ビルや大和証券の支店における電力使用量は減少しましたが、その減少率は鈍化しました。

都市ガス、上水、軽油の使用量は、本社ビルおよび支店における従業員食堂の廃止などに伴い減少しました。またガソリン使用量は、これまで営業用車両の軽自動車への転換により減少してきましたが、2006年度は微減にとどまりました。

大和証券グループでは、2007年7月よりグループ全社をあげてのクールビズを実施し、適切な温度設定の管理を開始し

ました。全役職員がクールビズをアピールするワッペンを着用し、また、各部室店へのポスター貼付や社内放送の活用により、地球環境問題の解決に向けてグループ全社をあげて取り組んでいく方針を徹底しました。



クールビズ・ワッペン

- ▶ WEB参照 環境負荷データの対象範囲
- ▶ WEB参照 大和証券グループのコピー用紙・帳票用紙購入量

本社移転に伴う環境負荷の低減

大和証券グループ本社、大和証券本店、および大和証券SMBCは、2007年12月にグラントウキョウ ノースタワー(東京都千代田区丸の内1-9-1)に移転いたします。グラントウキョウ ノースタワーは、自動調光制御システムや断熱効果の高いエアフローウィンドウ*など最先端の省エネルギー技術を導入しており、環境負荷が大幅に低減される見込みです。

また、大和証券グループ独自の環境対策として、14フロア約1万5千坪にリサイクル可能なフロアカーペットを使用するほか、廃棄書類をすべて溶解処理できる紙リサイクルシステム、ハロンガスを使わない消火設備などを導入します。

移転時には、回収できるコンテナボックスを使用し、不要物も可能な限りリユース・リサイクルを行い、「廃棄ゼロ」の移転を目指します。

* エアフローウィンドウ: サッシの二重ガラスの間に室内の空気を通過させて、窓からの外部熱負荷を軽減させる機能を持つ窓。

2007年度の目標と主な行動計画

クールビズ、適切な室温調整の実施を通して、従業員の地球環境問題への意識を高め、さらなる環境負荷の低減に努めます。また帳票類電子化の拡大などにより、紙の節約を行います。本社ビルの移転においてはリユース・リサイクルを行い、「廃棄ゼロ」の移転を目指します。

大和証券グループのエネルギー使用量(表1)

年度	2003	2004	2005	2006
電力(kWh)	95,239,027	89,546,672	86,320,394	88,732,751
都市ガス(m ³)	885,700	904,255	727,485	691,395
ガソリン(リットル)	1,213,171	1,151,487	1,036,609	1,035,700
重油(リットル)	45,179	61,739	30,146	34,087
軽油(リットル)	12,732	11,048	1,267	73

* 対象範囲は WEB参照 「環境負荷データの対象範囲」をご覧ください。

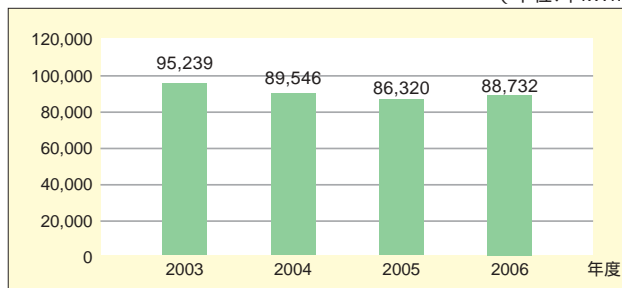
大和証券グループのエネルギー使用量のCO₂排出量(表2)(単位:kg-CO₂)

年度	2003	2004	2005	2006
電力	52,857,660	49,698,403	47,907,819	49,246,677
都市ガス	1,841,955	1,880,543	1,512,921	1,437,867
ガソリン	2,816,571	2,673,362	2,406,654	2,404,543
重油	134,703	184,078	89,882	101,632
軽油	33,349	28,937	3,319	191
合計	57,684,238	54,465,324	51,920,594	53,190,910

* CO₂排出量換算に用いた排出係数は、すべての年度において「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令(平成18年3月経済産業省、環境省令第3号)」にもとづく二酸化炭素の排出係数を使用しています。

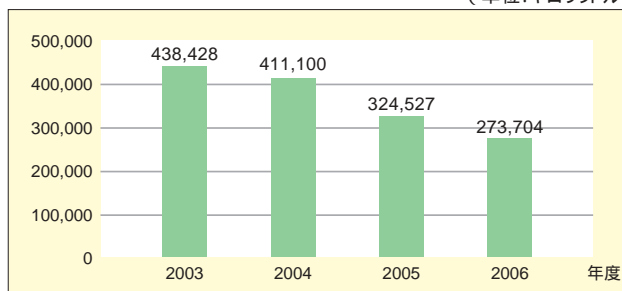
* 対象範囲は WEB参照 「環境負荷データの対象範囲」をご覧ください。

大和証券グループの電力使用量の推移(グラフ1) (単位:千kWh)



* 対象範囲は WEB参照 「環境負荷データの対象範囲」をご覧ください。

大和証券グループの上水使用量の推移(グラフ2) (単位:キロリットル)



* 対象範囲は WEB参照 「環境負荷データの対象範囲」をご覧ください。

大和証券グループの廃棄物の発生量とリサイクル量の推移(表3)(単位:トン)

年度	2003	2004	2005	2006	
紙ごみ	発生量	1,495.5	1,552.8	1,470.3	1,451.6
	リサイクル量	1,297.4	1,328.8	1,212.3	1,230.4
	処分量	198.1	224.0	258.0	221.2
	リサイクル率	87%	86%	82%	83%
紙ごみ以外	発生量	316.5	417.5	391.8	415.8
	リサイクル量	79.0	112.9	104.4	88.5
	処分量	237.5	304.6	287.4	327.1
	リサイクル率	25%	27%	27%	21%

* 対象範囲は WEB参照 「環境負荷データの対象範囲」をご覧ください。